

2016年3月期決算説明会

2016年5月16日



扶桑化学工業株式会社

- I . 2016年3月期決算概要
- II . 事業の概況
 - ・ライフサイエンス事業
 - ・電子材料および機能性化学品事業
- III . 2017年3月期業績予想

I . 2016年3月期決算概要



2016年3月期（累計期間）決算概要



(単位：百万円)

	当期実績	前期実績	前年同期比		2/1公表 修正計画	計画比	
			増減額	増減率		乖離額	乖離率
売上高	35,298	32,223	+3,075	+9.5%	35,000	+298	+0.9%
営業利益	7,279	5,426	+1,853	+34.1%	6,800	+479	+7.1%
経常利益	7,299	5,524	+1,774	+32.1%	6,900	+399	+5.8%
当期純利益	4,716	3,452	+1,264	+36.6%	4,550	+166	+3.7%
償却前営業利益	9,077	7,573	+1,503	+19.9%	8,681	+395	+4.6%
一株当たり 当期純利益	143.7 円	109.5 円	+34.1 円		138.7 円	+5.1 円	

セグメント別売上高・営業利益【前期比】



(単位：百万円)

	売上高				営業利益			
	前期 ('15/3期)	当期 ('16/3期)	前年同期比		前期 ('15/3期)	当期 ('16/3期)	前年同期比	
			増減額	増減率			増減額	増減率
ライフサイエンス事業	21,370	23,285	+ 1,915	+ 9.0%	2,718	3,541	+ 822	+ 30.3%
電子材料および 機能性化学品事業	10,853	12,012	+ 1,159	+ 10.7%	3,508	4,694	+ 1,185	+ 33.8%
(調整額)	—	—	—	—	△801	△955	△154	—
計	32,223	35,298	+ 3,075	+ 9.5%	5,426	7,279	+ 1,853	+ 34.1%

2016年3月期四半期別セグメント別業績推移



(単位：百万円)

		2016年3月期						
						上期	下期	通期
		1Q (4-6月)	2Q (7-9月)	3Q (10-12月)	4Q (1-3月)	(4-9月)	(10-3月)	(4-3月)
売上高	当期	8,925	8,651	8,924	8,796	17,577	17,721	35,298
	前期	7,501	6,857	9,238	8,626	14,359	17,864	32,223
ライフサイエンス事業	当期	5,695	5,820	5,911	5,858	11,516	11,769	23,285
	前期	4,787	4,467	6,266	5,848	9,255	12,114	21,370
電子材料および 機能性化学品事業	当期	3,230	2,831	3,013	2,938	6,061	5,951	12,012
	前期	2,713	2,389	2,971	2,778	5,103	5,749	10,853
営業利益	当期	1,730	1,833	1,942	1,772	3,564	3,714	7,279
	前期	1,324	945	1,691	1,464	2,270	3,156	5,426
ライフサイエンス事業	当期	631	1,014	1,019	874	1,646	1,894	3,541
	前期	567	458	877	815	1,025	1,693	2,718
電子材料および 機能性化学品事業	当期	1,331	1,057	1,154	1,150	2,389	2,304	4,694
	前期	951	673	984	899	1,624	1,884	3,508
(調整額)		△232	△238	△231	△253	△470	△485	△955

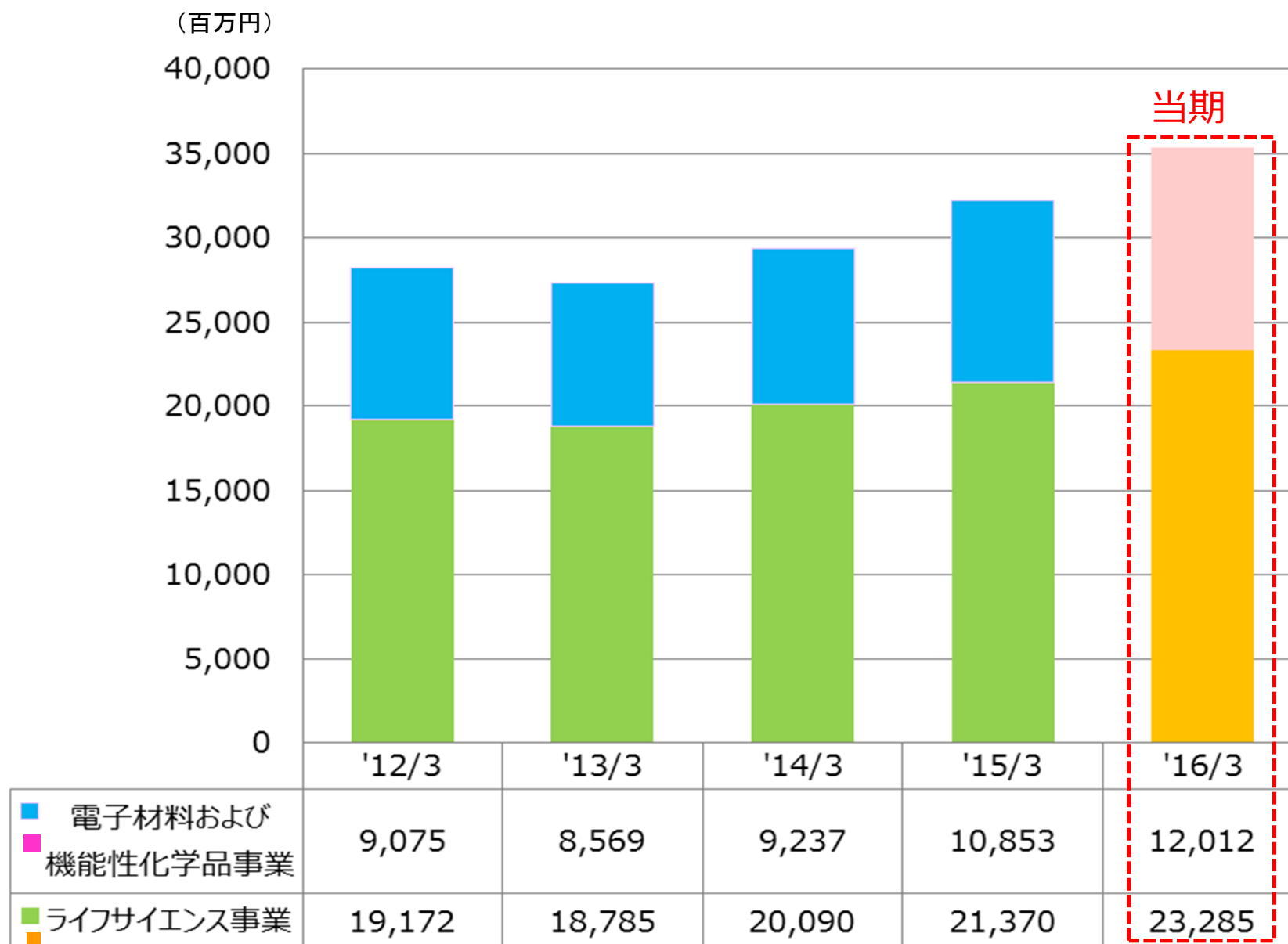
セグメント別売上高・営業利益【過去3年】



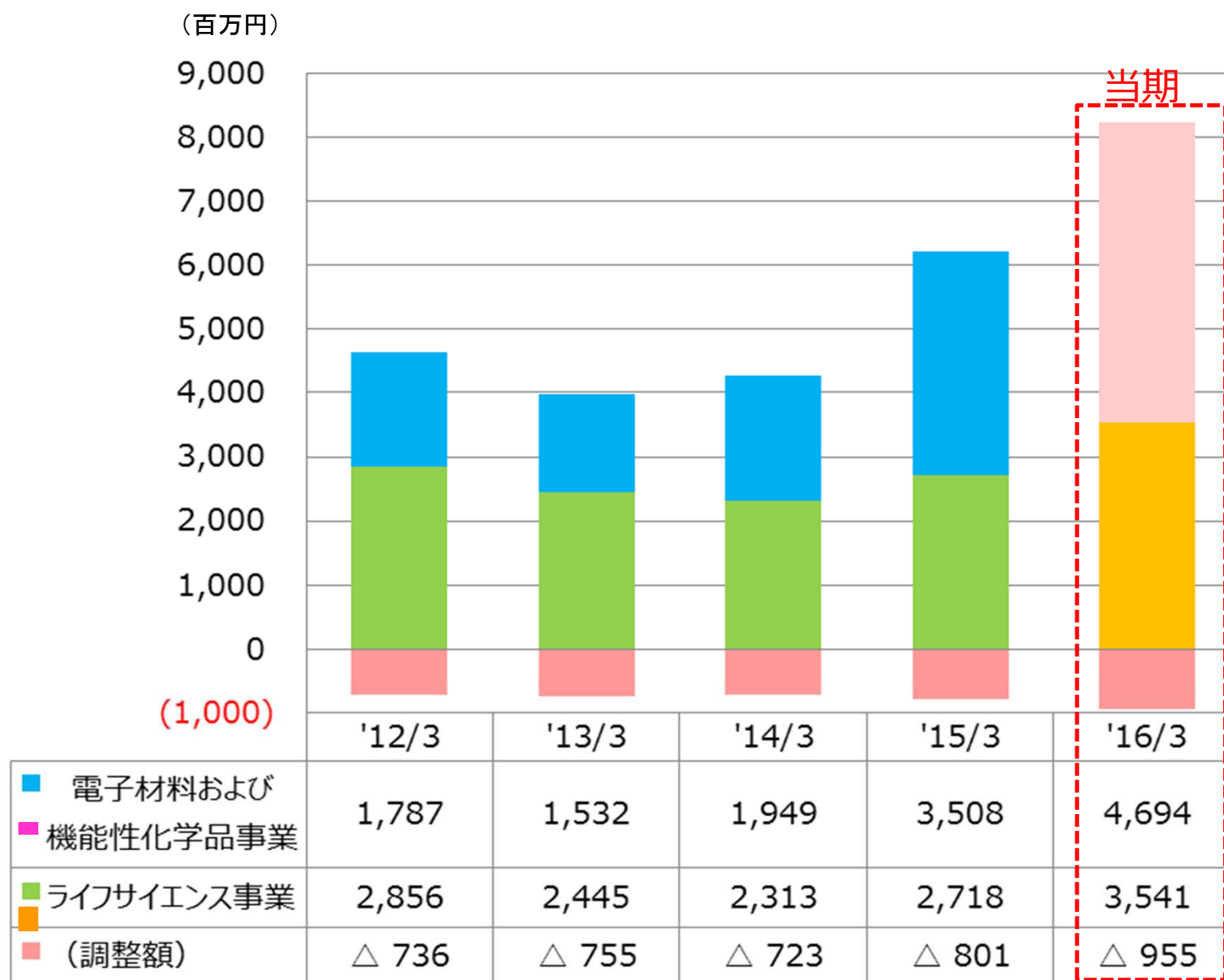
(単位：百万円)

	'14/3期	'15/3期	'16/3期
売上高	29,327	32,223	35,298
ライフサイエンス事業	20,090	21,370	23,285
電子材料および 機能性化学品事業	9,237	10,853	12,012
営業利益	3,539	5,426	7,279
ライフサイエンス事業	2,313	2,718	3,541
電子材料および 機能性化学品事業	1,949	3,508	4,694
調整額	△723	△801	△955
売上高営業利益率	12.1%	16.8%	20.6%
ライフサイエンス事業	11.5%	12.7%	15.2%
電子材料および 機能性化学品事業	21.1%	32.3%	39.1%

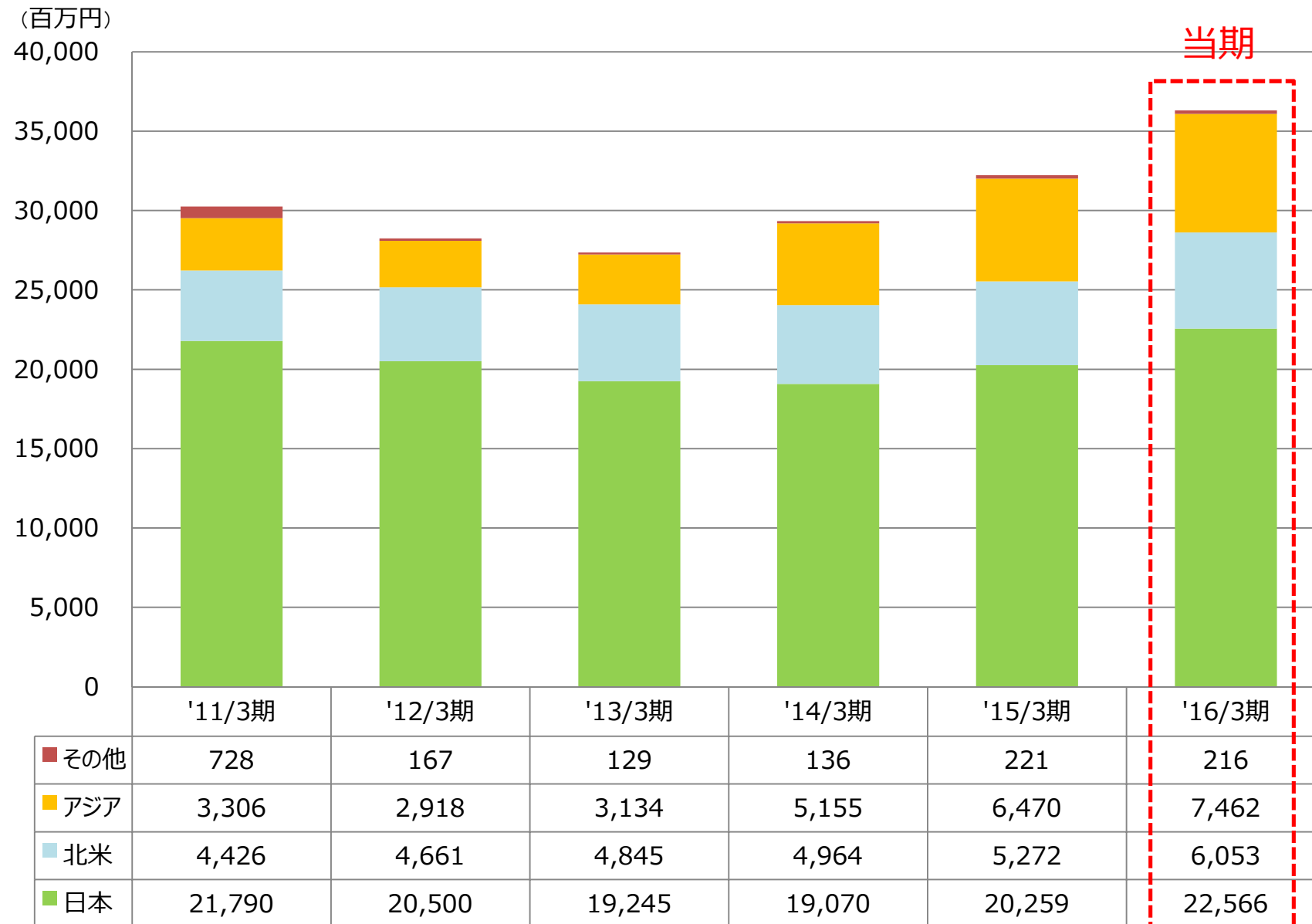
セグメント別売上高推移



セグメント別営業利益推移



海外売上高推移



資産の状況



流動資産（前期末比 + 10,891百万円）

- ・現預金の増加（+120億円）※公募増資
- ・受取手形及び売掛金増加
- ・原材料及び貯蔵品の減少

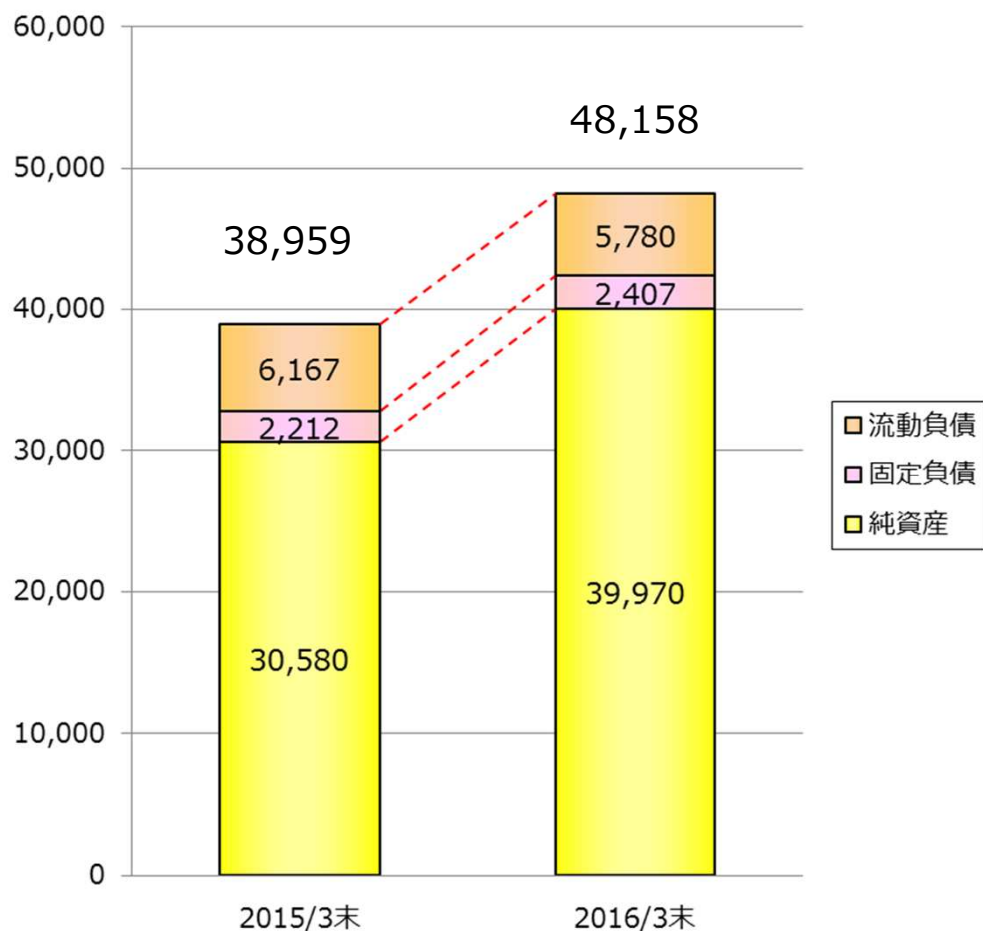
固定資産（前期末比 △ 1,692百万円）

- ・減価償却による減少
- ・投資有価証券の時価評価額の減少

負債・純資産の状況



(百万円)



流動負債（前期末比△386百万円）

- ・短期借入金返済

固定負債（前期末比+195百万円）

- ・退職給付に係る負債の増加

純資産（前期末比+9,390百万円）

- ・資本金の増加（+31.5億円）
- ・資本剰余金の増加（+31.5億円）
- ・利益剰余金の増加（+40.8億円）
- ・為替換算調整勘定の減少

キャッシュ・フロー計算書



(百万円)

	前期 ('15/3)	当期 ('16/3)
営業活動による キャッシュ・フロー	6,369	8,086
投資活動による キャッシュ・フロー	△2,542	△6,943
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,778	4,845
現金及び現金同等物 に係る換算差額	231	△296
現金及び現金同等物 の増加額	2,279	5,692
現金及び現金同等物 の期首残高	3,242	5,521
現金及び現金同等物 の期末残高	5,521	11,214

営業活動によるキャッシュ・フロー

- ・税金等調整前当期純利益の増加
- ・減価償却費の発生
- ・仕入債務の増加

投資活動によるキャッシュ・フロー

- ・定期預金の運用
- ・有形固定資産の取得

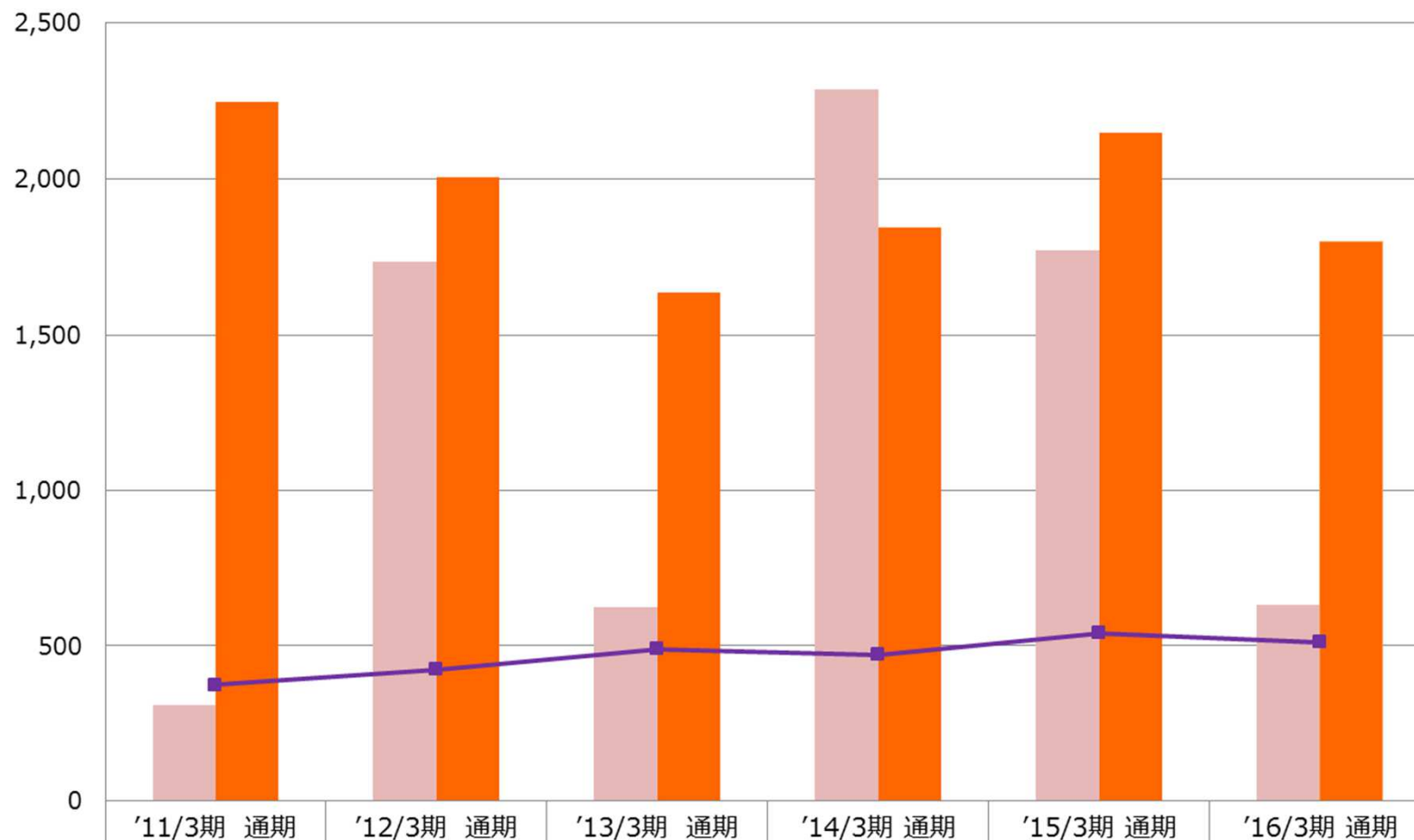
財務活動によるキャッシュ・フロー

- ・公募増資による増加

設備投資・減価償却費・研究開発費推移

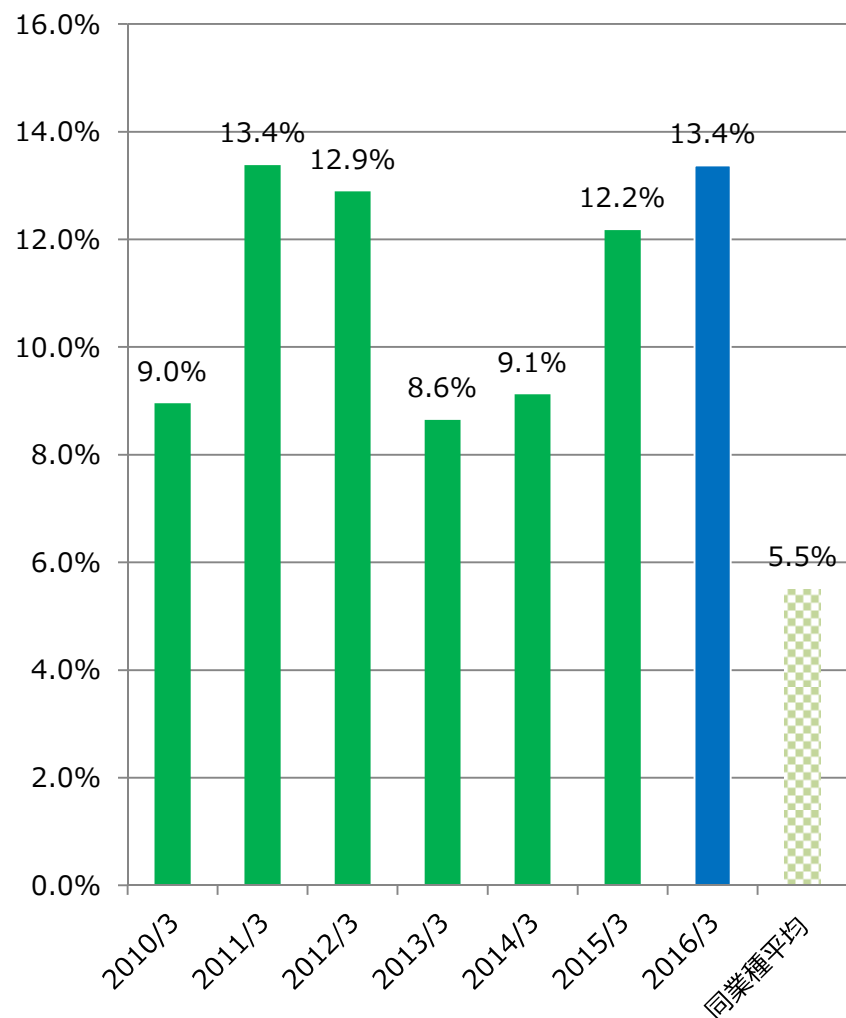


(百万円)

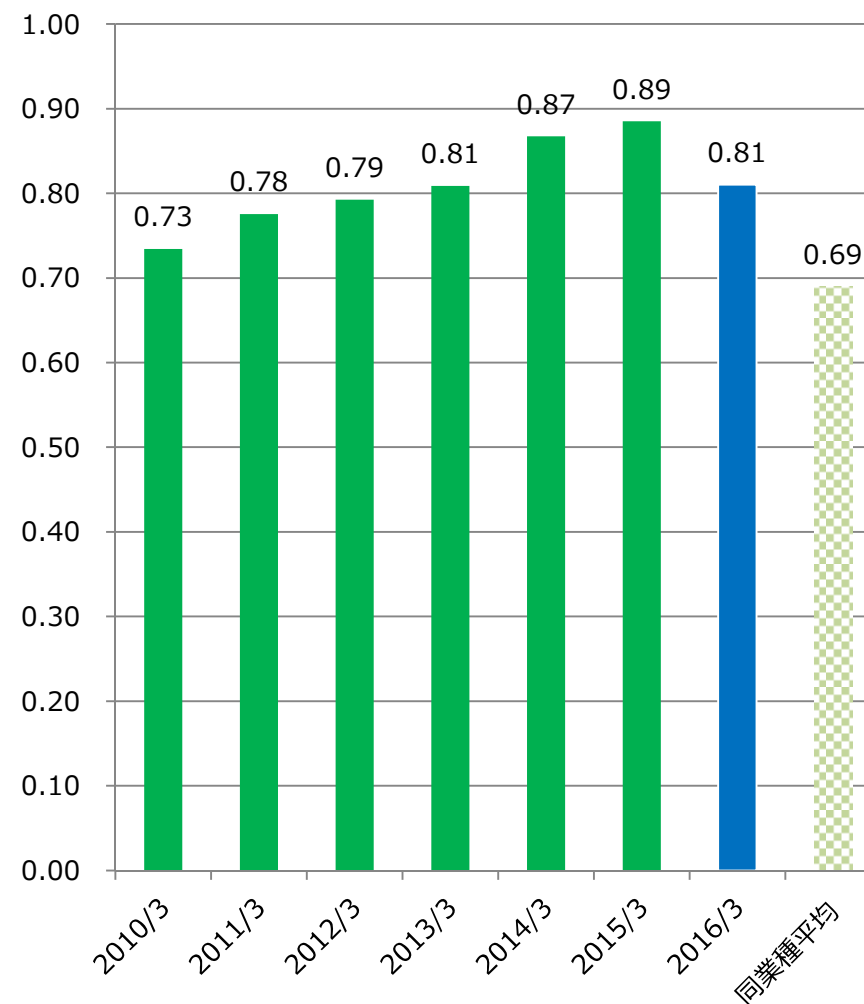


	'11/3期 通期	'12/3期 通期	'13/3期 通期	'14/3期 通期	'15/3期 通期	'16/3期 通期
設備投資	309	1,736	625	2,288	1,771	632
減価償却費 (のれん償却含む)	2,248	2,005	1,636	1,845	2,147	1,798
研究開発費	375	424	489	471	540	512

ROE (%)



総資産回転率



Ⅱ．事業の概況



ライフサイエンス事業

I .2016年3月期決算概要

II .事業の取り組み

(a) “FUSO”ブランドの確立

(b) グローバル展開

(c) 農水産業への展開

III .設備投資計画



事業内容



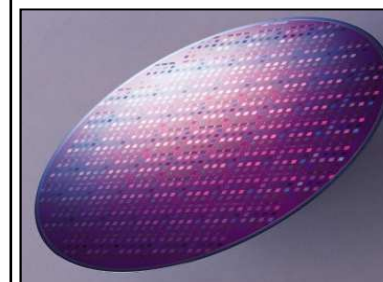
ライフサイエンス 事業

- リンゴ酸類
- クエン酸類
- グルコン酸類
- ★無水マレイン酸
- ★フマル酸類
- 乳酸類
- イタコン酸
- ビタミンC類
- 食品製剤類
- 化成品および製剤
- 海苔用活性処理剤
- その他果実酸
- ★2014年度下期より当社名での販売を開始



電子材料 および 機能性化学品 事業

- シリカ関連誘導品
 - ・超高純度コロイダルシリカ
 - ・高純度シリカナノパウダー
 - ・高純度オルガノシリカゾル
 - ・アルキルシリケート
- 高純度果実酸
- ファインケミカル
- その他機能性化学品



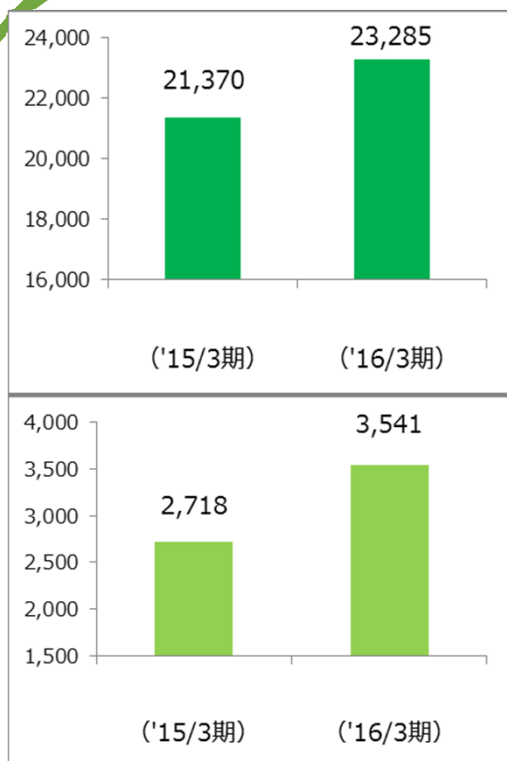
セグメント別売上高・営業利益



ライフサイエンス事業

(単位：百万円)

	前期 ('15/3期)	当期 ('16/3期)	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	21,370	23,285	+1,915	+9.0%
営業利益	2,718	3,541	+822	+30.3%



◇売上高

<増加要因>

- ・無水マレイン酸・フマル酸販売（三井化学品）の売上増
- ・飲料向け果実酸の夏場需要の好調
- ・飲料向け新規採用
- ・円安による為替換算増
- ・リンゴ酸国内・輸出販売好調

<減少要因>

- ・ナフサ価格下落による販売価格下落

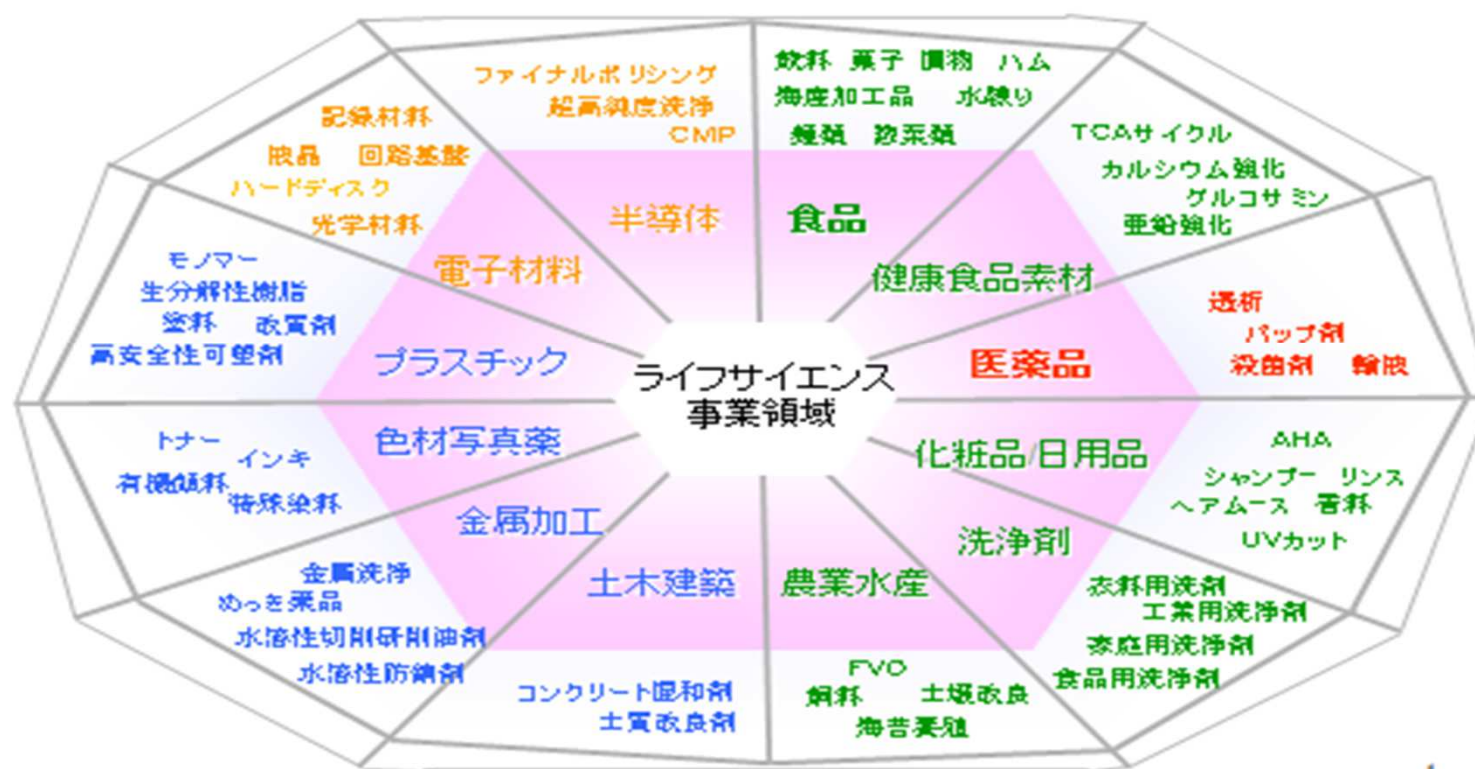
◇営業利益

<増加要因>

- ・売上増に伴う増加
- ・円安による為替換算増
- ・石油化学製品の損益改善
- ・石油価格下落に伴う、電気・光熱費減
- ・コスト削減

<減少要因>

- ・円安の影響による輸入原材料価格の上昇
- ・一部製商品の販売価格改定（値上げ）の遅れ



製商品数650品目

得意先700社

顧客8,000社

当社製品に対する安心
長年の実績に対する信頼

国内食品市場縮小
加工食品・保存食品需要

次世代成長産業



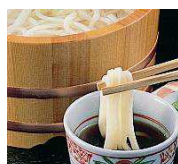
“FUSO”ブランドの確立



グローバル展開



農水産業への展開



“FUSO” ブランドの確立 (1) 金メダル製品の増強



【1962年】

【リンゴ酸類】

- 国内唯一のメーカーとして確固たる地位を確立



【1986年】

【クエン酸類】

- 高度な精製技術を活かしたリンゴ酸に続く主力製品



【2003年】

【グルコン酸類】

- 旧藤沢薬品工業より、グルコン酸を含む化成品事業を譲受



【2014年】

【無水マレイン酸】 【フマル酸】

- 三井化学より、無水マレイン酸、フマル酸を含む有機酸事業を譲受



“FUSO”ブランドの確立（2）果実酸コンビナート構築



（1）本計画の位置付け

鹿島果実酸コンビナート構想の
1st stepとする

（2）コンセプト

世界No.1の
リンゴ酸メーカーを目指す

（3）本計画の概要

能力：15,000MT/Y
工期：2018年末営業運転開始

（4）設備要件

- ①世界最大規模の生産量
- ②コスト競争力の強化
- ③品質管理体制の強化



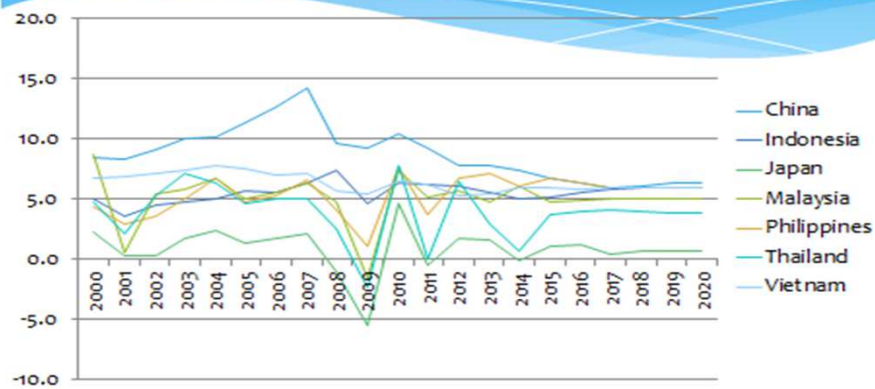
有機酸プラント（現状：三井化学鹿島工場）

リンゴ酸生産設備を新設

“FUSO”ブランドの確立（3）リンゴ酸の販売拡大

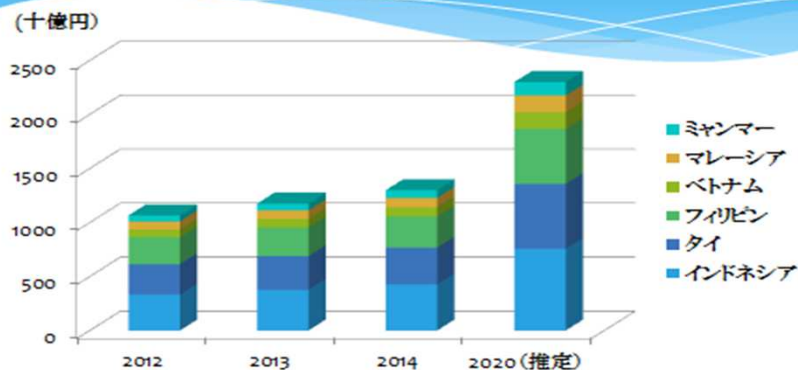


アジア各国GDP伸び率実績・予測



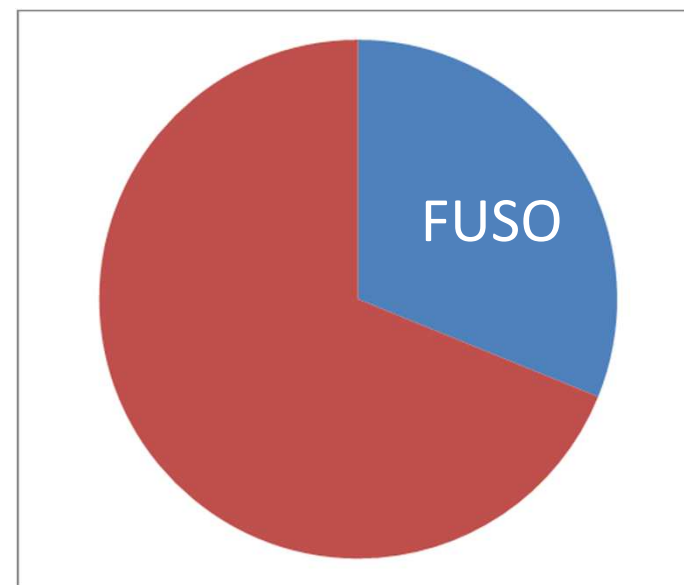
出典：IMF, World Economic Outlook Database

拡大するASEANの清涼飲料市場



出典：富士経済「アセアン諸国における食品市場実態調査」

アジアのリンゴ酸市場 (28,800トン)



(当社推定)

世界市場は年率平均3%の伸び、
アジア市場は年率5%程度拡大すると予想
2020年アジア市場需要予想38,000トン

グローバル展開（アジア）



東南アジア市場でのビジネスチャンス拡大

- 日系食品メーカーの東南アジア市場へのシフト加速
- 日本食への関心の高まりによる現地需要拡大
- 嗜好の多様化、消費の二極化

中国・タイ工場での設備増強

- 混合機の増設
- 液体製剤、粉末製剤の生産量アップ



グローバル展開（北米）



北米市場で強固な 経営基盤の確立

- ・ グルコン酸類の米国国産メーカーとしての実績と信頼
- ・ 競争力のある製品群で、確実に利益確保
- ・ 高度な発酵技術をベースに高品質な製品を安定的に供給

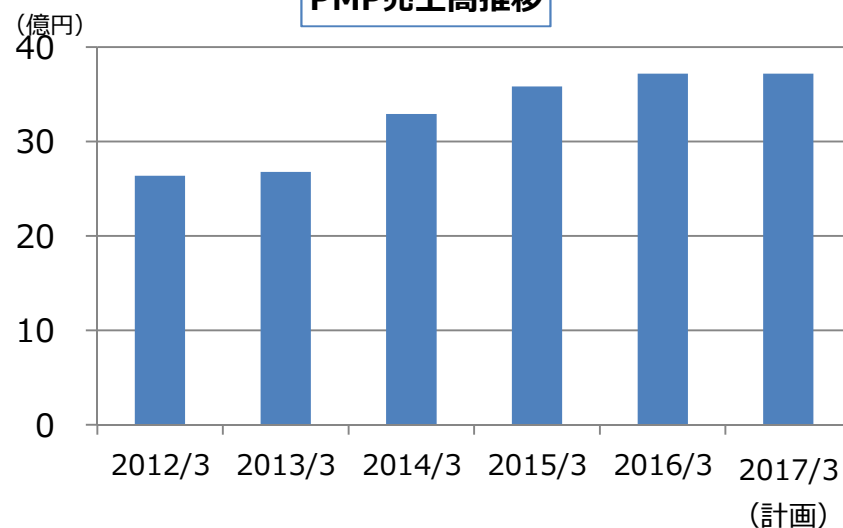
PMP Fermentation Products, Inc.

2003年（平成15年）12月
扶桑化学工業100%子会社に

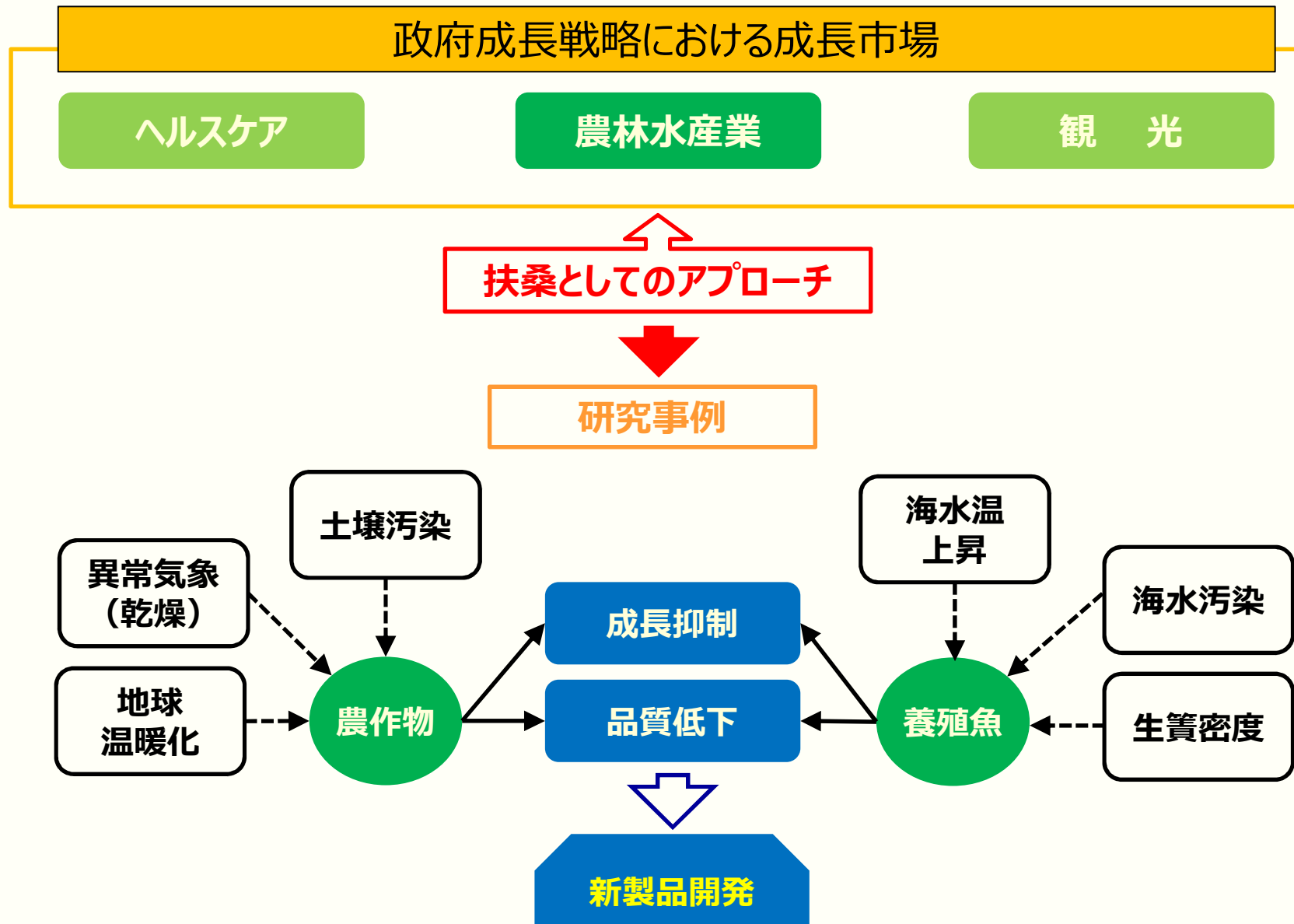
2011年（平成23年）5月
固定資産を一部売却（選択と集中）
グルコン酸類の製造販売に注力

2016年（平成28年）3月期
増収増益 過去最高益

PMP売上高推移



次世代成長産業（農水産業）への展開



着手及び完了予定

	改造費用 (概算)	2016		2017		2018	
		上期	下期	上期	下期	上期	下期
有機酸製造設備買収 (鹿島工場)	10億			2017年7月予定			
リンゴ酸製造設備新設 (鹿島工場)	36億					2018年7月予定	
クエン酸製造設備新設 (中国青島扶桑)	12.5億			2017年9月予定			

* 第59期第3半期報告書開示済

電子材料および 機能性化学品事業



事業内容



ライフサイエンス 事業



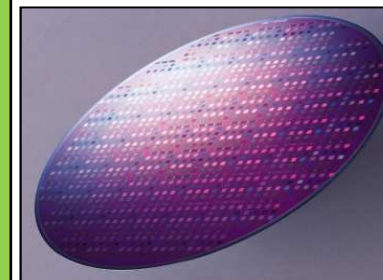
- リンゴ酸類
- クエン酸類
- グルコン酸類
- ★無水マレイン酸
- ★フマル酸類
- 乳酸類
- イタコン酸
- ビタミンC類
- 食品製剤類
- 化成品および製剤
- 海苔用活性処理剤
- その他果実酸
- ★2014年度下期より当社名での販売を開始



電子材料 および 機能性化学品 事業



- シリカ関連誘導品
 - ・超高純度コロイダルシリカ
 - ・高純度シリカナノパウダー
 - ・高純度オルガノシリカゾル
 - ・アルキルシリケート
- 高純度果実酸
- ファインケミカル
- その他機能性化学品



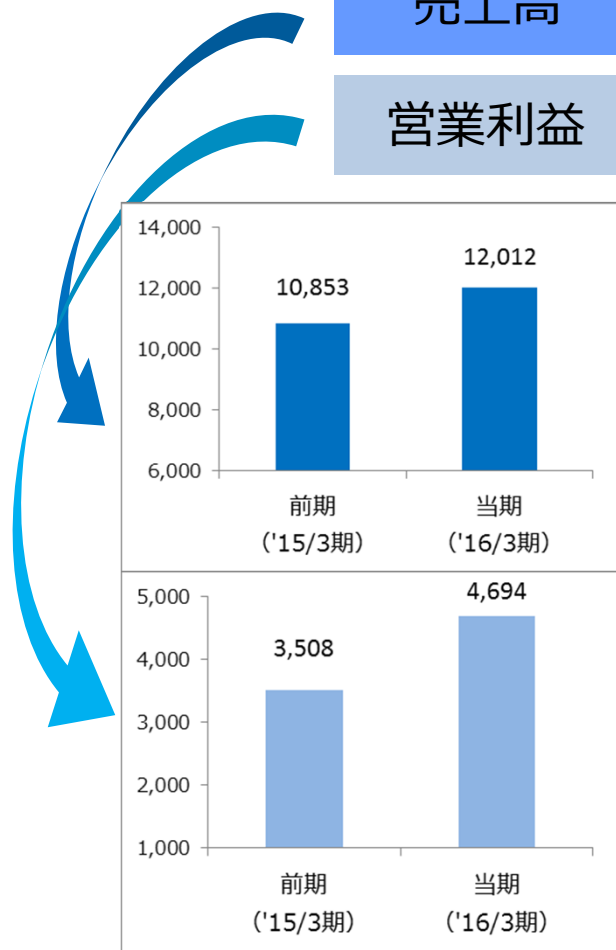
セグメント別売上高・営業利益



電子材料および機能性化学品事業

(単位：百万円)

	前期 ('15/3期)	当期 ('16/3期)	前年同相比	
			増減額	増減率
売上高	10,853	12,012	+1,159	+10.7%
営業利益	3,508	4,694	+1,185	+33.8%



◇売上高

<増加要因>

- ・スマートフォン等,半導体市場の安定した成長
- ・ナノパウダー売上増
- ・CMP分野での当社製品への切替
- ・円安による為替換算増
- ・値上げによる価格改定

<減少要因>

- ・シリコンウエハの研磨技術向上に伴う使用量の減少

◇営業利益

<増加要因>

- ・売上増による増加
- ・CMP向け増加
- ・円安による為替換算増
- ・稼働率向上による原価単価の低減

<減少要因>

- ・原材料価格の上昇
- ・円安の影響による輸入原材料価格の上昇

■ シリコンウエハポリッシング

- ◇最終研磨用途向け
→世界市場80%以上のシェア
- ◇一次・二次研磨向けにも展開



■ 半導体CMPスラリー

- ◇酸化膜 (SiO_2)
 - ・ 層間絶縁膜 (ILD)
 - ・ 素子分離 (STI)
- ◇メタル (W, AL, Cu...)
- ◇ポリシリコン、低誘電率膜 (Low-k)

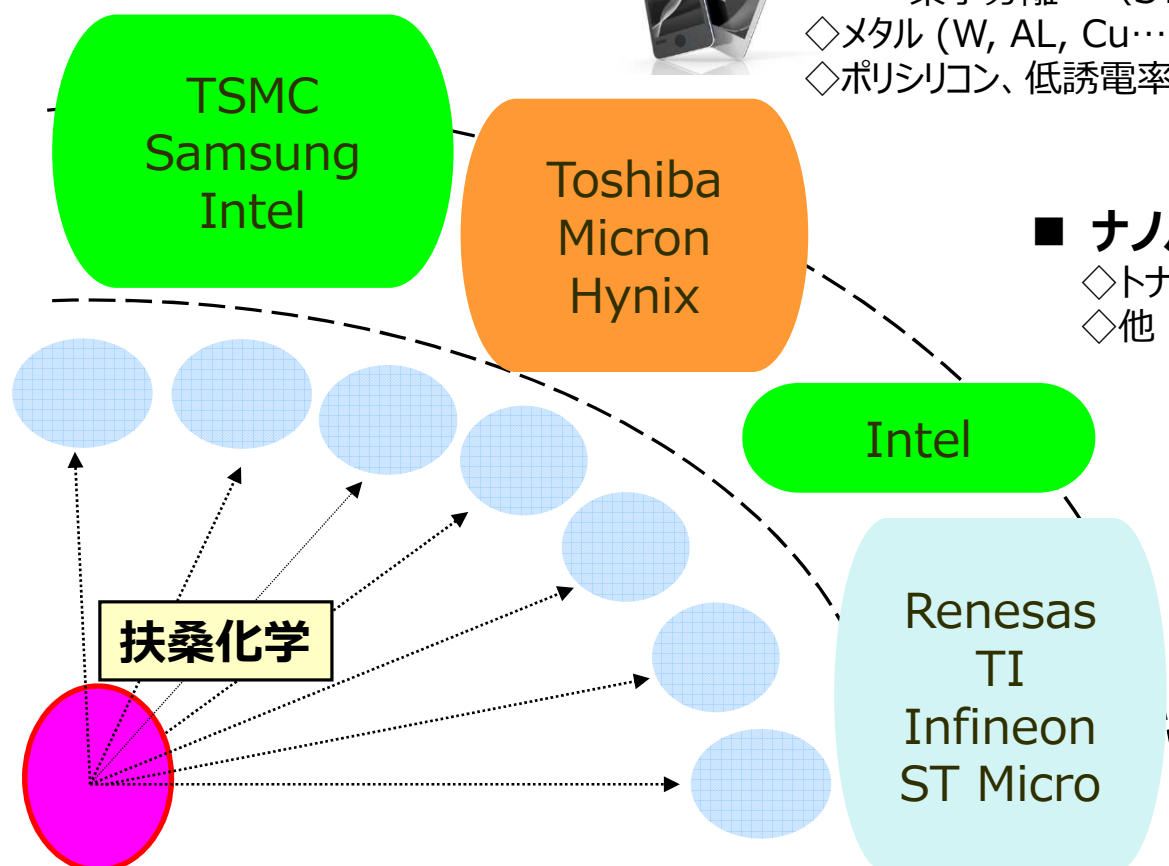


■ ナノパウダー

- ◇トナー用途
- ◇他

■ 新規用途への開発

- ◇フォトマスクブランクス研磨
- ◇ナノフィラー、添加剤



・ スマートフォン市場の飽和

- 主要市場では需要が一巡し、今後は買い替え需要に移行
- 2015年度上期は、iPhone 6s/6s Plus販売に伴い売上堅調に推移したが、在庫調整局面により、下期生産調整へ

・ 10nmプロセスの立ち上げ

- Intel/Samsung/TSMCが熾烈な開発競争
- 2016年末から2017年前半にかけて、各社10nmプロセスの立ち上げ計画

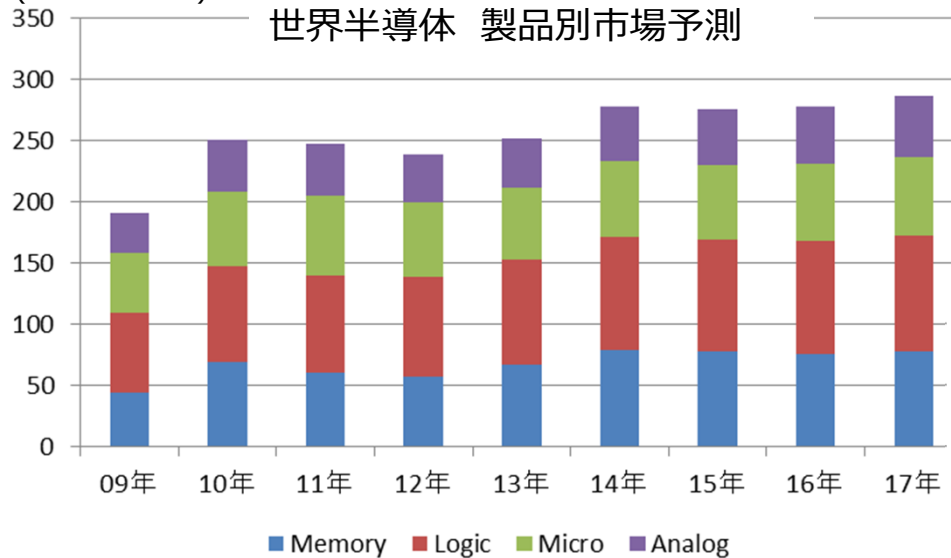
・ 中国半導体工場

- 中国政府主導で、半導体の内製化に莫大な投資

半導体市場と微細化の推移

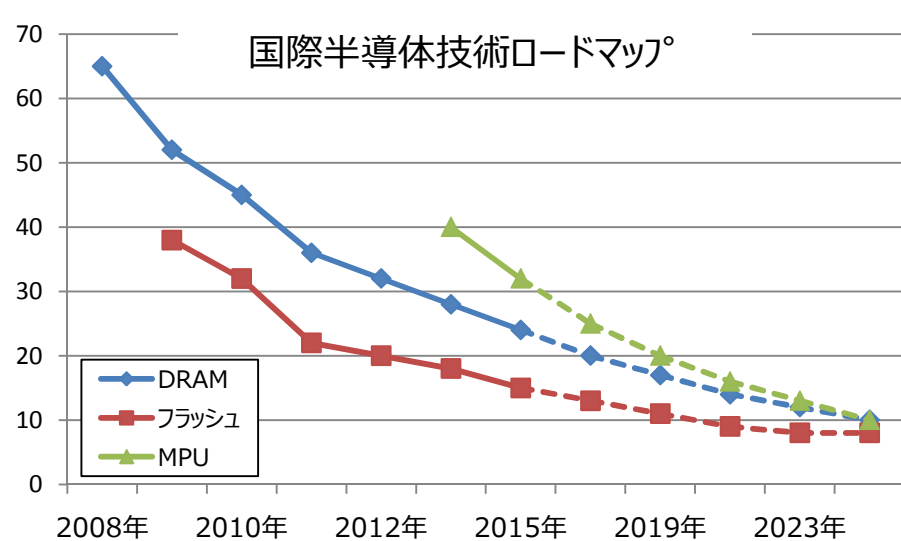


(単位：十億ドル)



出典：WSTS2015年秋季半導体市場予測

(単位：nm)

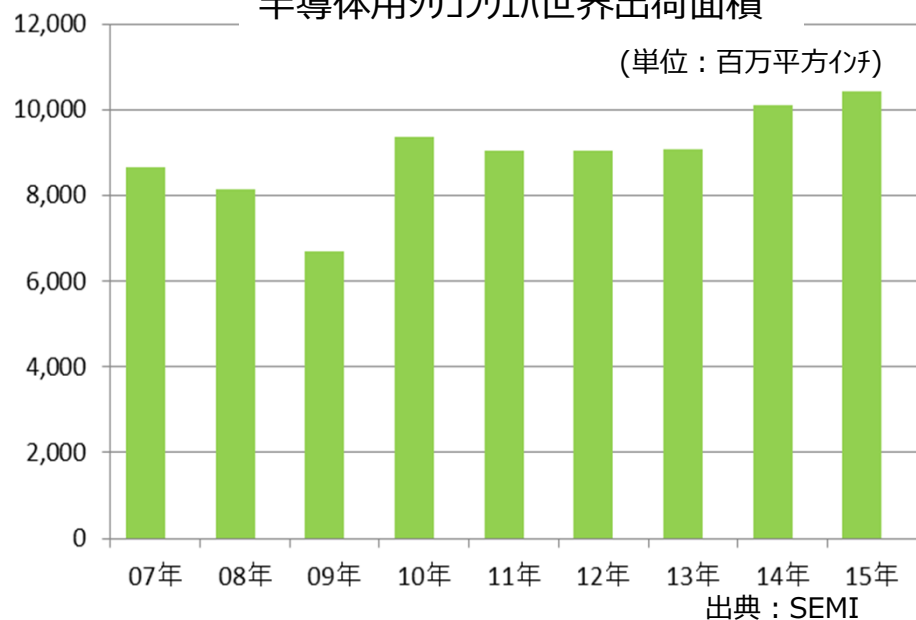


出典：ITRS 2013

半導体市場は、CY14-CY17
年平均1.5%の伸び率と予測

半導体用シリコンの世界出荷面積

(単位：百万平方インチ)



15年は過去最高の出荷量
今後も半導体の微細化は進む

半導体研磨分野向け製品 中期販売目標：130億円

年平均10%前後の成長を見込む

1. 背景

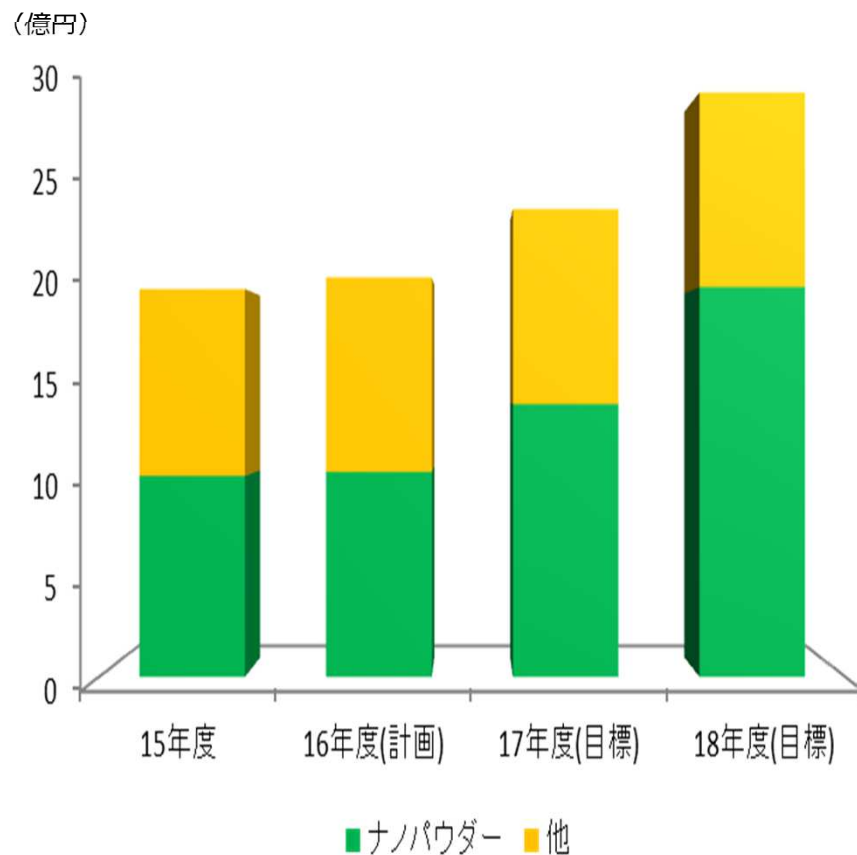
- ・半導体市場の牽引役は
 - (1) 買い替え需要に移行はしているが依然「スマートフォン」
 - (2) IoTの普及により、ビックデータを取り扱う「データセンター」
 - (3) 自動運転等による「自動車の電子化」
- ・デバイスメーカー各社は、ICを微細化することで「高速動作」と「高集積化」を目指している
- ・微細化(10nmプロセス)に伴い、半導体研磨スラリーへの品質要求はより高度化
⇒超高純度コロイダルシリカの使用場面が多くなると期待

2. 具体的施策

- | | |
|----------------------|--------------|
| (1) シングルナノレベルでの粒子径制御 | ⇒研磨レート of 安定 |
| (2) 粗大粒子の低減 | ⇒歩留まり向上 |
| (3) 金属不純物のコントロール | ⇒デバイスの信頼性向上 |

- ・厳しくなる顧客要求に対し、粒径 & 形状コントロール、表面改質技術により迅速に対応する。
- ・CMP分野では、ケイ酸ソーダ法シリカやヒュームドシリカからの切替を進めシェア拡大を図る。
- ・ウエハ研磨向けには超高純度の特長を生かした使用場面を探索し物量増を図る。

半導体研磨分野以外向け 中期販売目標 30億円



1. 基本戦略



新規開発の中心
的役割を果たす
東京研究所が入
居するKSP外観

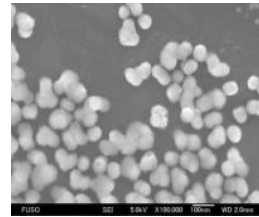
高純度シリカの安定的大量生産で培った
技術・知識を応用し、新分野へ果敢に挑
戦する。

2. 具体的施策

高純度かつ粒子径、形状を自由にコント
ロールできる技術を基礎として表面改質技
術、パウダー化技術と組み合わせる種々の
用途向けにパウダーを開発する。

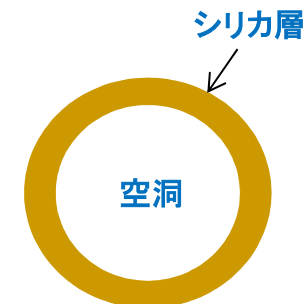
・ ナノパウダー

ナノシリカ粒子をパウダー化したもの
有機無機ハイブリッド材料、ガラス代替、
アンチブロッキング用途が期待される。
最適な表面修飾を施すことによって、
ユーザーの希望する溶媒、樹脂に高濃度
分散させる。



・ 中空ナノシリカ

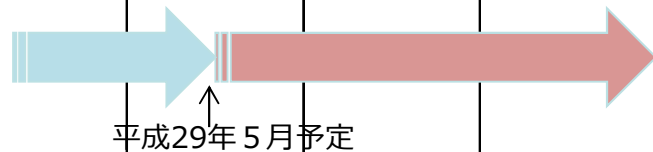
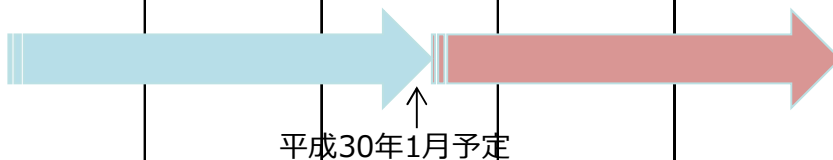
粒子径数十 nm の内部が空洞のシリカ
粒子。低屈折材料、絶縁材料、DDS
材料等への利用が期待されます。



設備投資計画



1. スケジュール

	改造費用 (概算)	2016		2017		2018	
		上期	下期	上期	下期	上期	下期
新製品対応設備	5 億						
製造ライン増設	30億						

* 第59期第 3 半期報告書開示済

2. 早期完成

- (1) 工事 (2) 試作・洗浄 (3) 認定

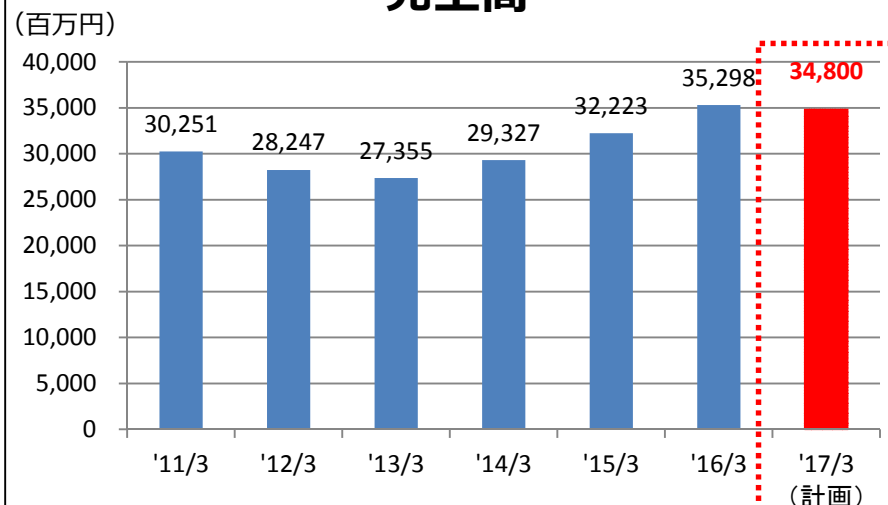
・それぞれの期間短縮を図る

Ⅲ. 2017年3月期業績予想

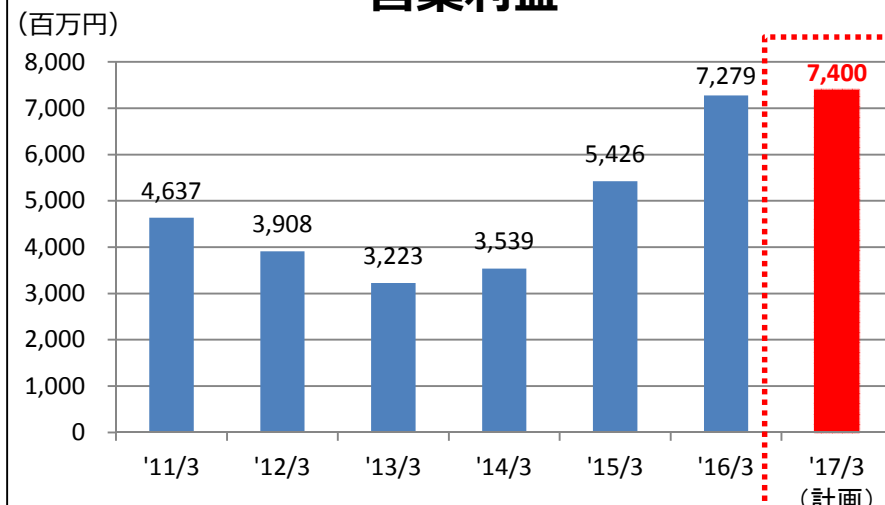
業績推移および計画



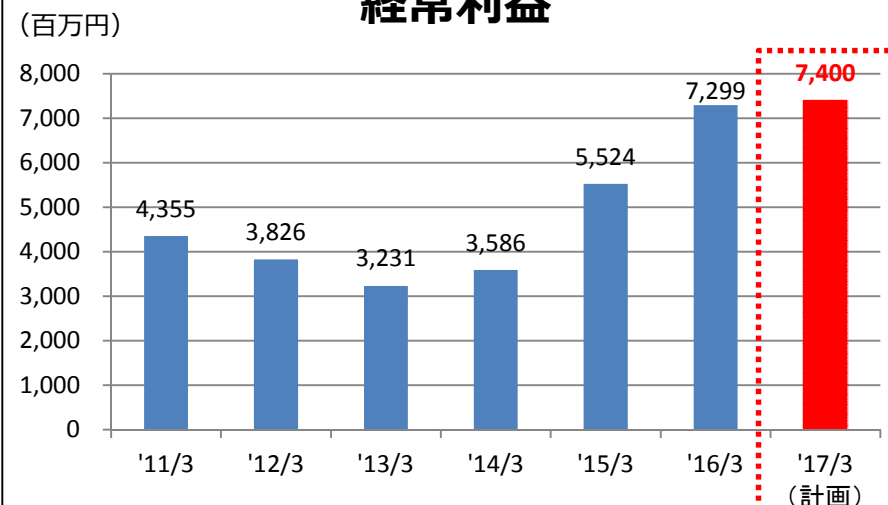
売上高



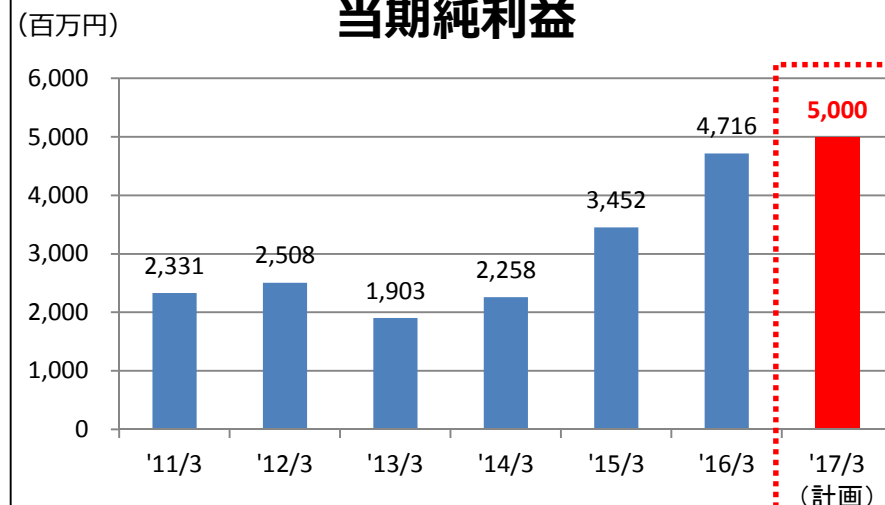
営業利益



経常利益



当期純利益



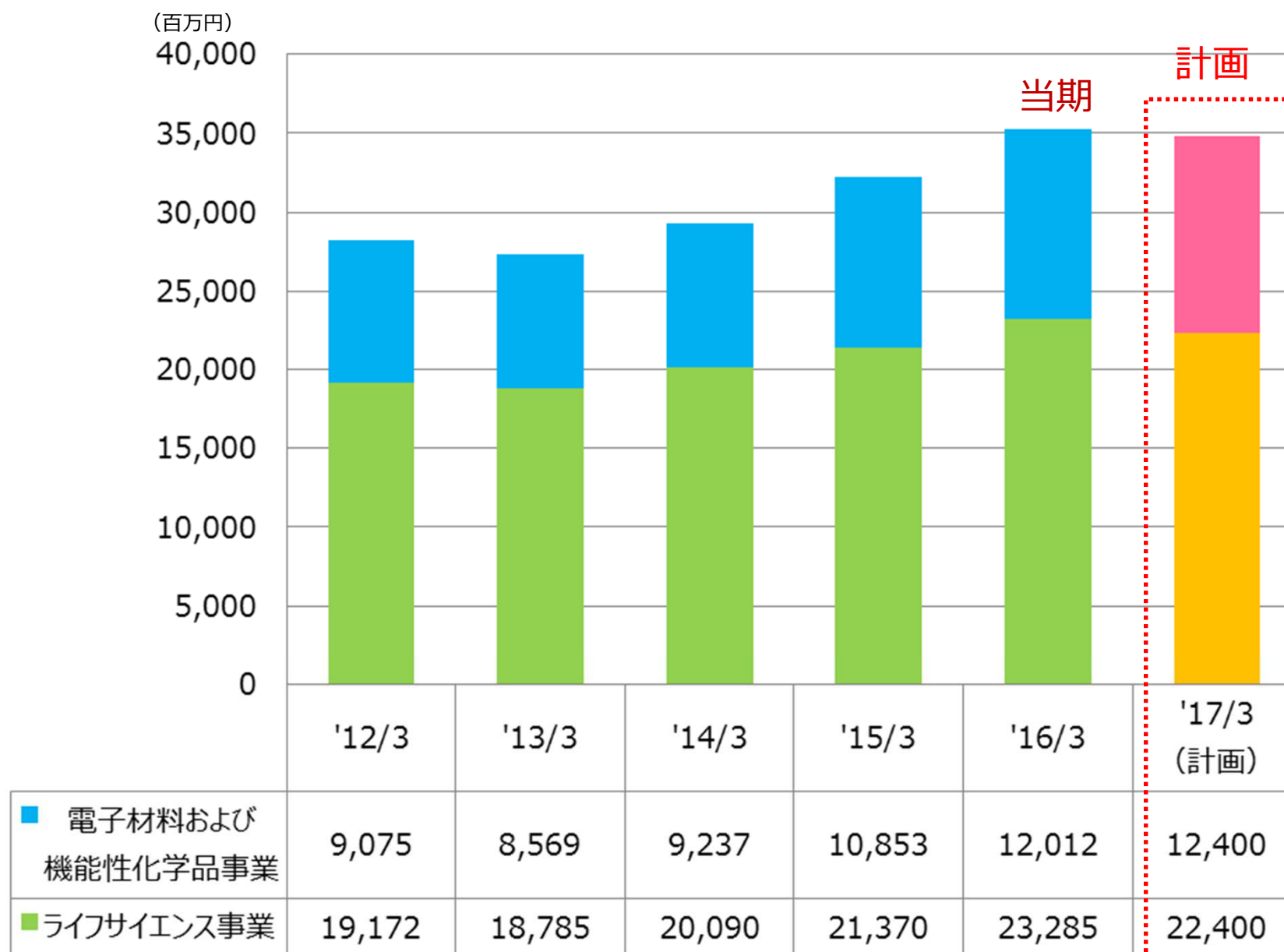
2017年3月期 通期業績予想



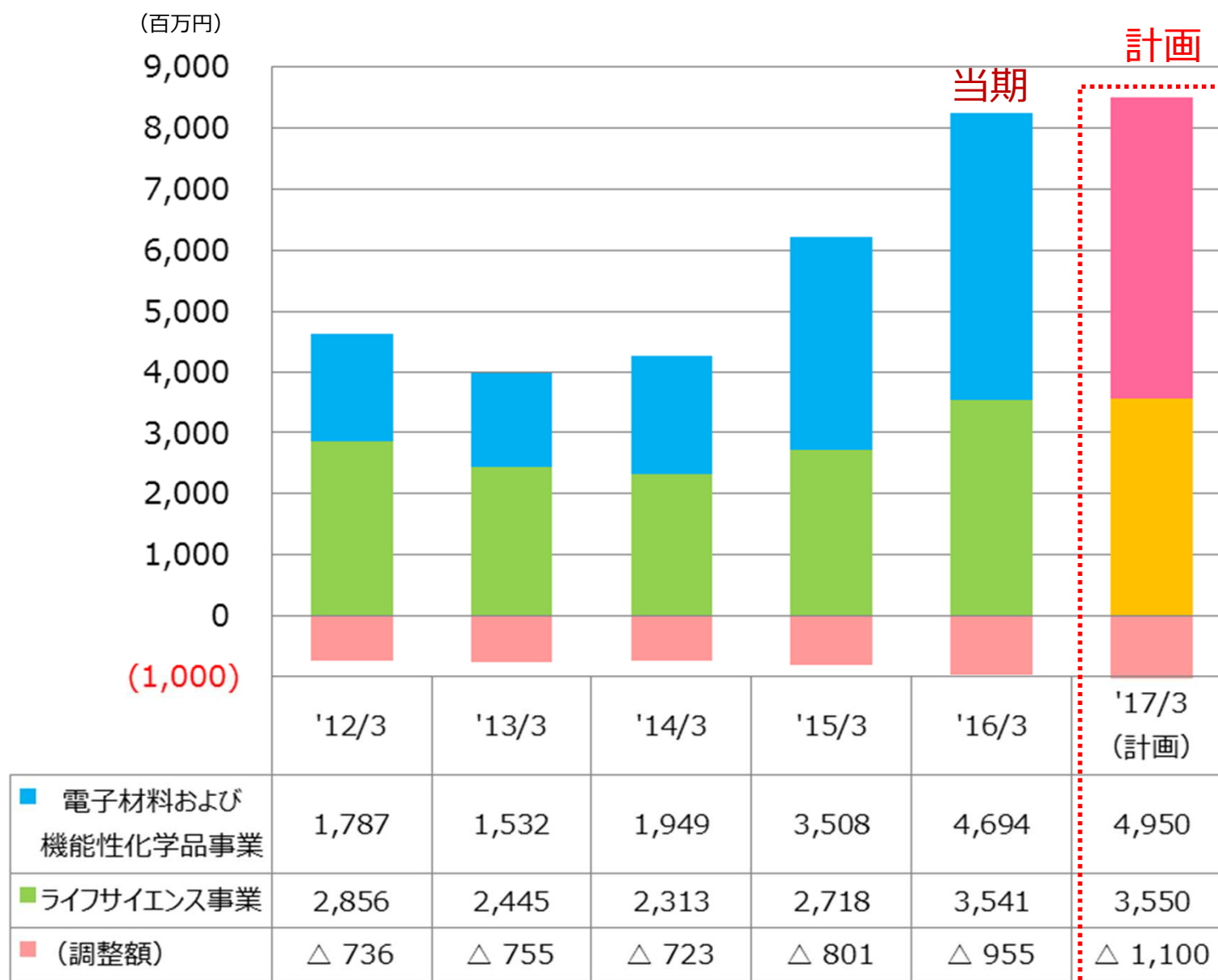
(単位：百万円)

	'16/3期 上期 (実績)	'16/3期 通期 (実績)	'17/3期上期 (計画)	'17/3期通期 (計画)
売上高	17,577	35,298	17,100	34,800
ライフサイエンス事業	11,516	23,285	10,950	22,400
電子材料および 機能性化学品事業	6,061	12,012	6,150	12,400
営業利益	3,564	7,279	3,600	7,400
ライフサイエンス事業	1,646	3,541	1,700	3,550
電子材料および 機能性化学品事業	2,389	4,694	2,500	4,950
(調整額)	△470	△955	△600	△1,100
経常利益	3,660	7,299	3,600	7,400
当期純利益	2,446	4,716	2,350	5,000
一株当たり当期純利益	77.6 円	143.7 円	66.1 円	140.8 円

セグメント別売上高推移



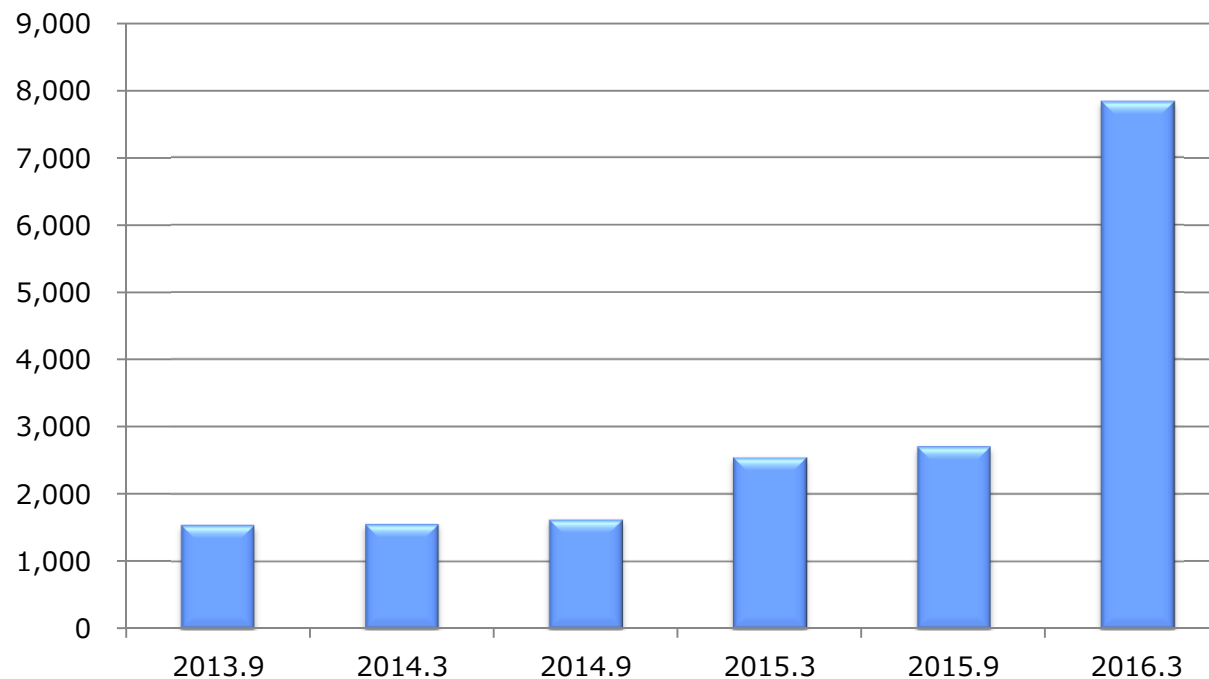
セグメント別営業利益推移



I. 株主数

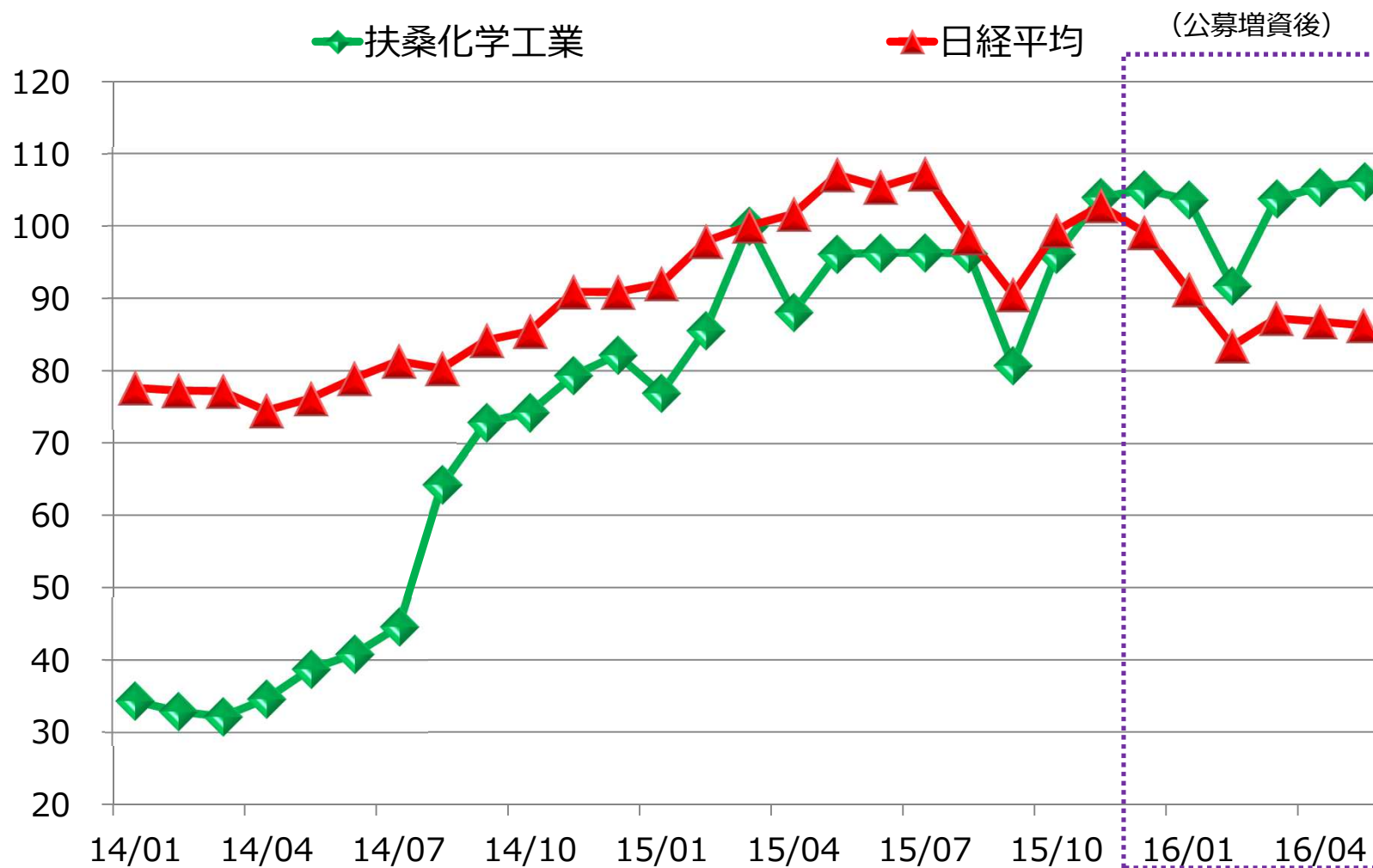
- ・ 2013年以降、株主数は増加傾向
- ・ 2014年10月1日に普通株式1株式につき5株の割合で株式分割
- ・ 2015年12月7日を払込期日とする、公募による新株発行実施により、2016年3月末株主数は大幅増

■ 株主数



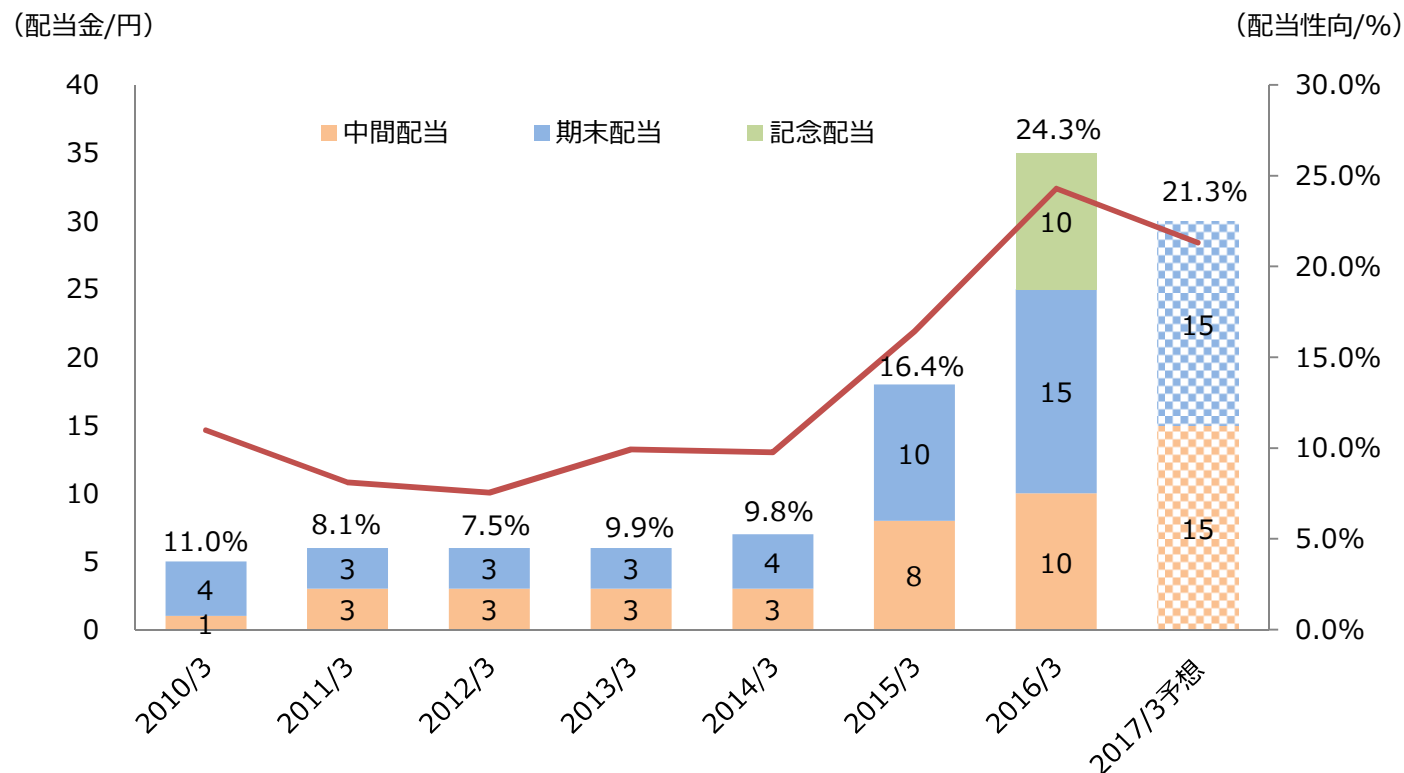
Ⅱ．株価推移

【株価の状況 2014年1月～（2015年3月基準:100）】



Ⅲ. 配当金

- H28.3月期予定：前年度（18円）に比べ1株につき17円増配
 - ・記念配当金10円（東証1部市場変更の記念配当）
 - ・普通配当金25円（中間配当10円、期末配当15円）
- H29.3月期予定
 - ・普通配当金30円（中間配当15円、期末配当15円）



この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、グループ各社の現時点での入手可能な情報に基づいており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。

